NO.077

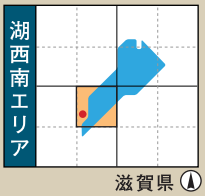
名勝

国指定

えんりゃくじ　さとぼうていえん

延暦寺里坊庭園

大津市坂本四丁目ほか　平成10年12月8日指定



延暦寺里坊庭園は、比叡山で修行を終えた老僧が隠居するための住居として、安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて、人里に構えた「里坊」にある庭園で、中でも芸術的価値が高い10カ寺の庭園が名勝の指定を受けています。いずれも比叡山から流れ出る水をふんだんに使った傑作庭園です。

当時のできごと	
788年	最澄　延暦寺を創建
1571年	織田信長が比叡山を焼き討ちにする
1640年	延暦寺根本中堂が建立される

里坊について



里坊の穴太積石垣

比叡山延暦寺は、延暦4年（785）に伝教大師最澄により開かれた、天台宗の総本山で、今も昔と変わらぬ厳しい修行の場となっています。比叡山中にある修行僧の住む坊を「山坊（さんぼう）」というのに対し、山中での厳しい修行生活を終えた老僧の隠居の場として、麓の坂本に与えられた住坊を「里坊（さとぼう）」といいます。現在、坂本地区には50箇所ほどの里坊が残り、穴太積石垣、白壁と黒瓦が美しい景観を織りなし、多くの人達が訪れています。

里坊は、老僧達の個人的な生活の場であることから、庭も個々の好みが反映された、自由な、芸術的にも高いものが多く見られます。



日吉神社の神体山「八王子山」と里坊

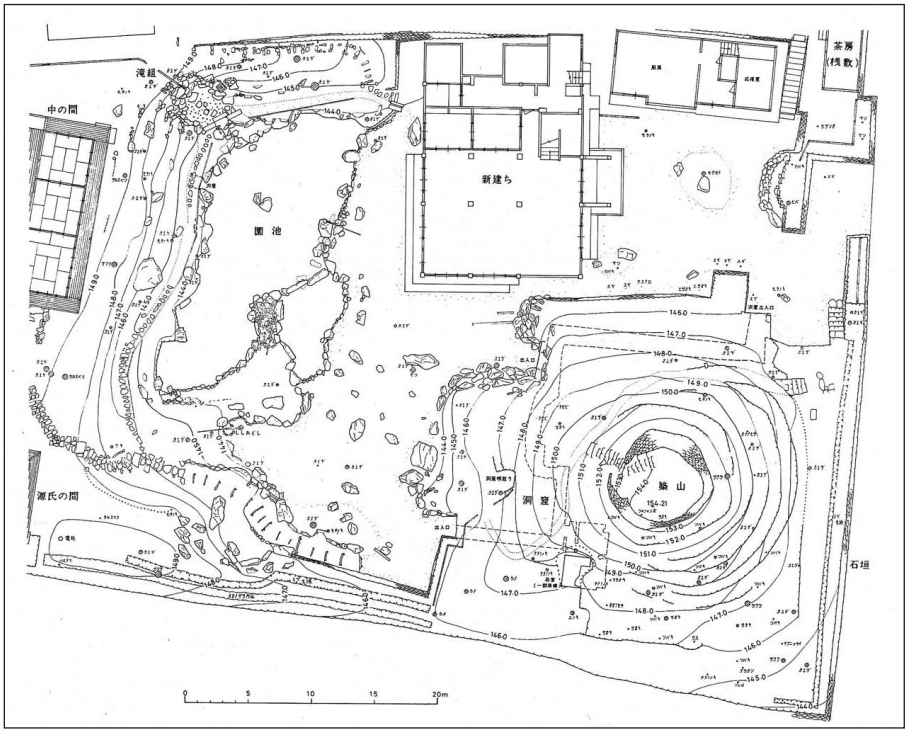


旧白毫院庭園

旧白毫院庭園（きゅうびゃくごういんていえん）

東塔東谷に属する里坊で、第1世真慶権大僧都が山坊を創立して第2世貞暁が万治年間（1658～61）に整え、延宝2年（1674）に権僧上に任ぜられた後、里坊に退いた頃に作られた庭園と考えられます。

南上方が台地になっている山裾に大きい池があり、周りに路が巡っています。池の南西隅には木樋が突き出し、高さ5mにもなる滝が清流を落としています。東には高い山を築き、頂上に三尊（さんぞん）形式で枯滝風（かれたきふう）の石組が見られます。また、北東部には富士山を模したといわれる高い築山があります。



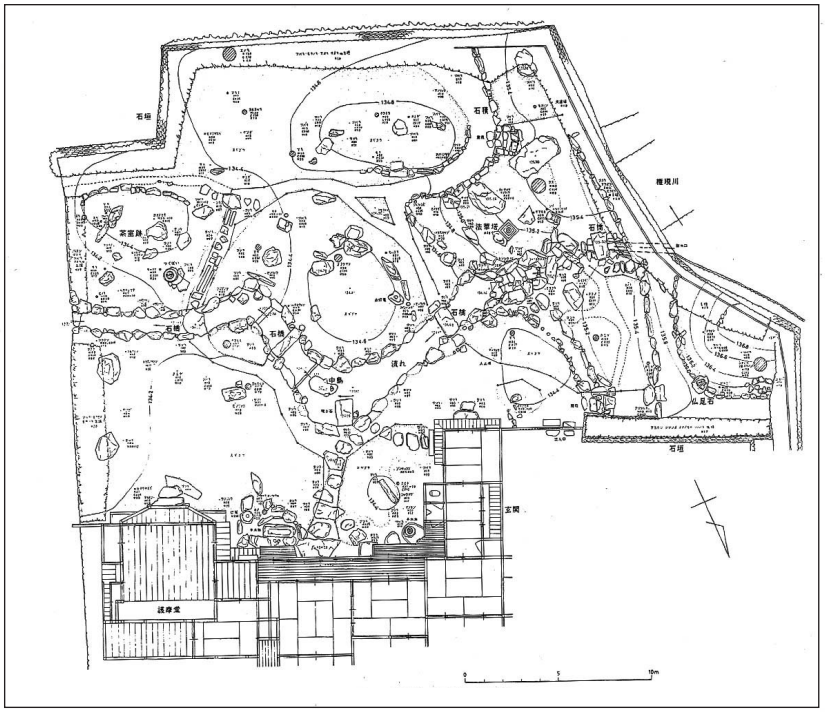
旧白毫院庭園平面実測図



雙厳院庭園［通常は非公開］

東塔東谷に属し、天台密教雙厳流の祖とされる雙厳坊頼昭法印の旧跡で、元和年間（1615～24）に第1世豪倪権僧正によって再興されたといわれています。現在の書院などは文政10年（1827）に再建されていることから、この時に庭を含め、幕末にかなり改修されたものと思われます。

書院の南庭の蛇行した水の流れを中心とした、遣水（やりみず）の庭園です。権現川から直接引かれた流水は、大ぶりな石の石組の下をくぐり、4段の瀑流となり、勢いよく遣水に注いでいます。Sの字に水が流れる苑路に応じて自然石の石橋が架かり、遣水の中央の岸には対岸の三尊石を拝むための礼拝石（らいはいせき）として、長方形の大きな石が水面に差し出されています。



雙厳院庭園平面実測図



雙厳院庭園



雙厳院庭園



三尊石と礼拝石



宝積院庭園　礼拝石

宝積院庭園（ほうしゃくいんていえん）

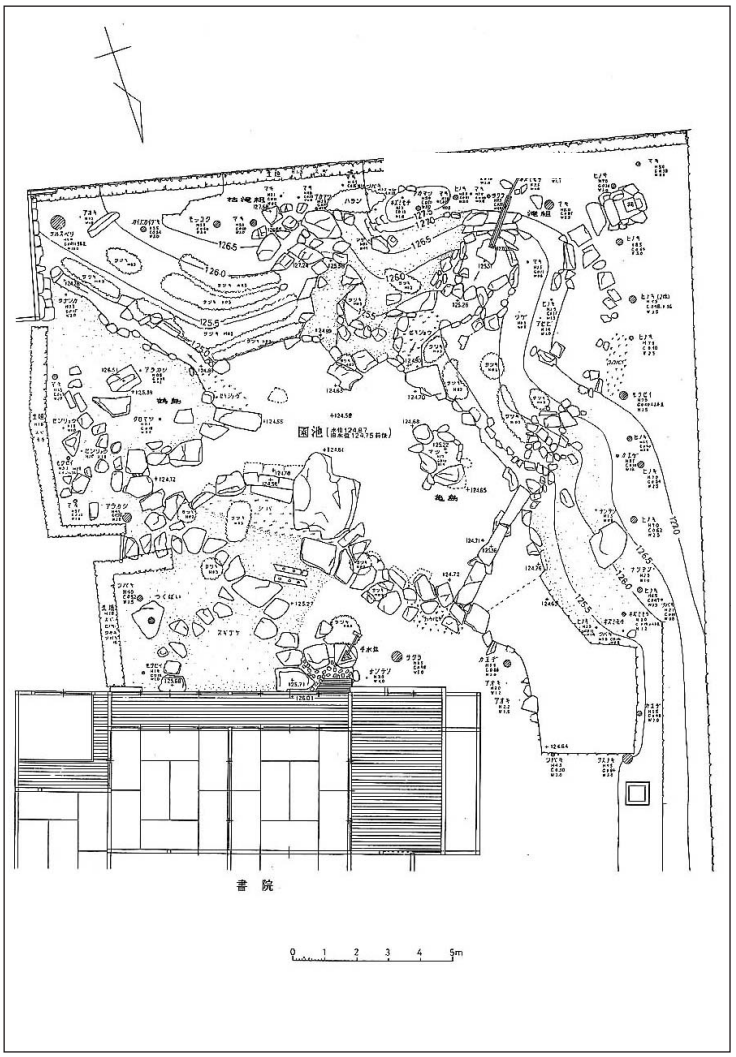
［通常は非公開］

東塔南谷に属し、第3世である行海僧正の時代の造営時（正保4年〈1647〉から万治年間〈1658～1661〉）に造られたと考えられる豪快な石組が特徴の庭です。

書院から眺める南庭で、南部から西部へ続く築山を背景に、北西部から南東部にかけて池を配しています。池の手前の岸には、庭の要となる大きな礼拝石が、池に乗り出して配されます。西部には力強い石組が見られ、その上に石樋をかけて滝を落としています。池の東部には鶴島を思わせる先端の角張った細長い石と、西部に亀をかたどった中島があり、形式どおり松が植え継がれています。



池と石橋

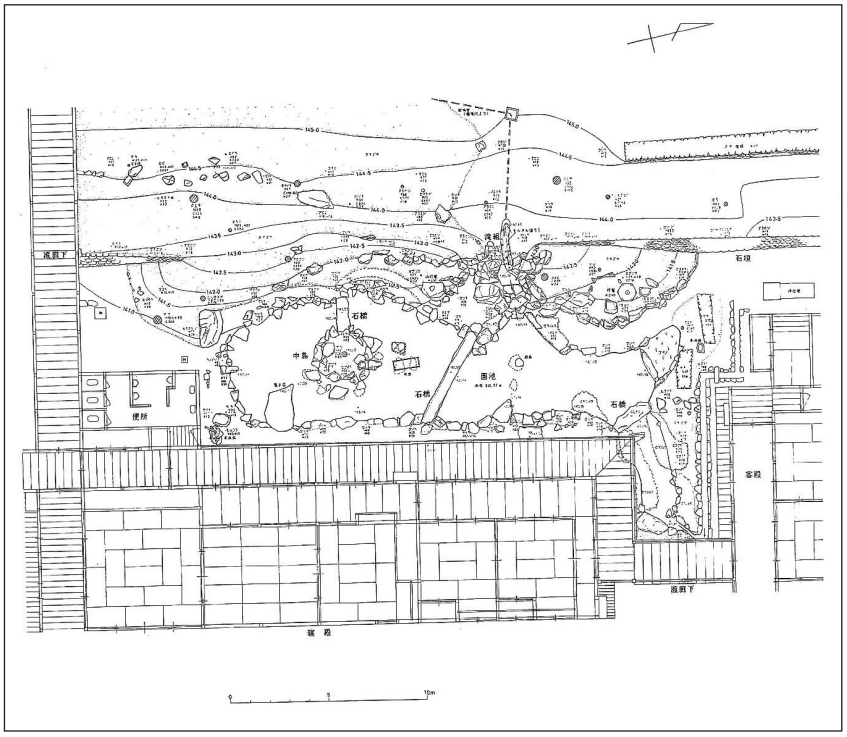


宝積院庭園平面実測図

滋賀院門跡庭園（しがいんもんぜきていえん）

延暦寺の本坊で、江戸時代の末期まで、天台座主（てんだいざす）となられた皇族が代々住まわれた所で、明暦元年（1655）に、後水尾天皇より滋賀院の寺号を賜り、徳川幕府の寄進により諸堂が整いました。庭もこの頃築庭されたと考えられます。

宸殿（しんでん）と西部の台地の裾との間に細長い池があり、単純な形ながら石組や植栽による構成は見事です。池の中央には長大な切石の橋が架かり、これを渡ったところに滝口があり、水を落とします。この周辺の石組には、古い手法が感じられます。滝口より北側は石垣を積んで台地とを区切り、南側は傾斜面を築山に見立て景石や刈込を配し、変化に富んだ意匠を作りあげています。



滋賀院門跡庭園平面実測図





滋賀院門跡庭園石橋



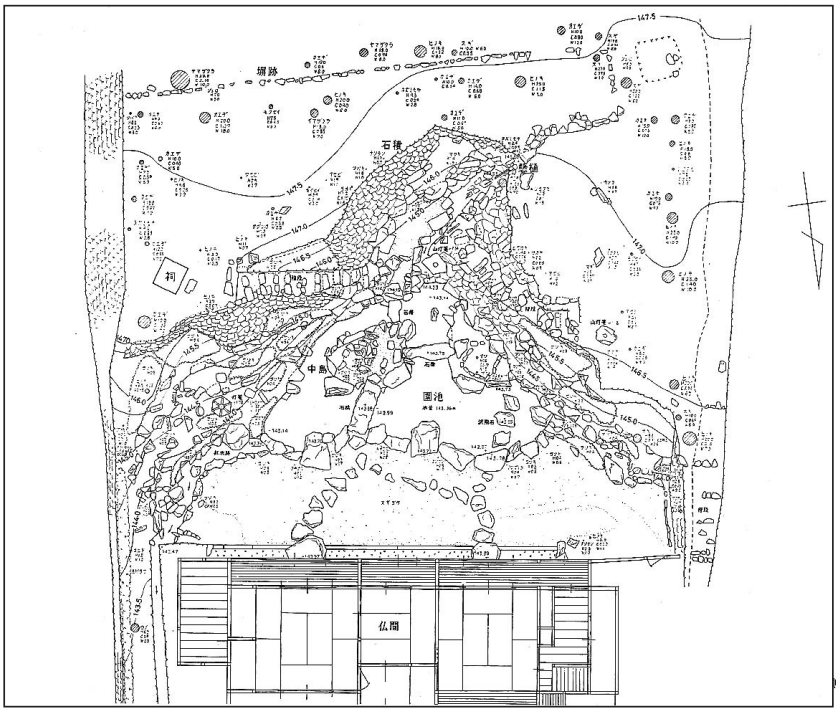
佛乗院庭園

佛乗院庭園［通常は非公開］

東塔西谷に属し、当初は浄土院と称していました。文化年間（1804～18）に再興され、庭はその時に築造されたと思われます。

書院の南庭で、台地の裾に池を掘り、台地より水を取り入れ、崖から滝を落としています。中央より東の方に中島を配し、南岸と西岸、書院側との崖下に自然石の石橋を渡しています。池の西側は入江状となり、ここに3個の沢飛石を配し、南北の岸をつなぎ、庭を一巡できるようにしています。

江戸末期の庭としては平面、立体双方ともまとまったつくりをしています。また、頼山陽や田能村竹田など文人墨客（ぼっかく）も多く訪れ、詩歌や絵を残しています。



佛乗院庭園平面実測図

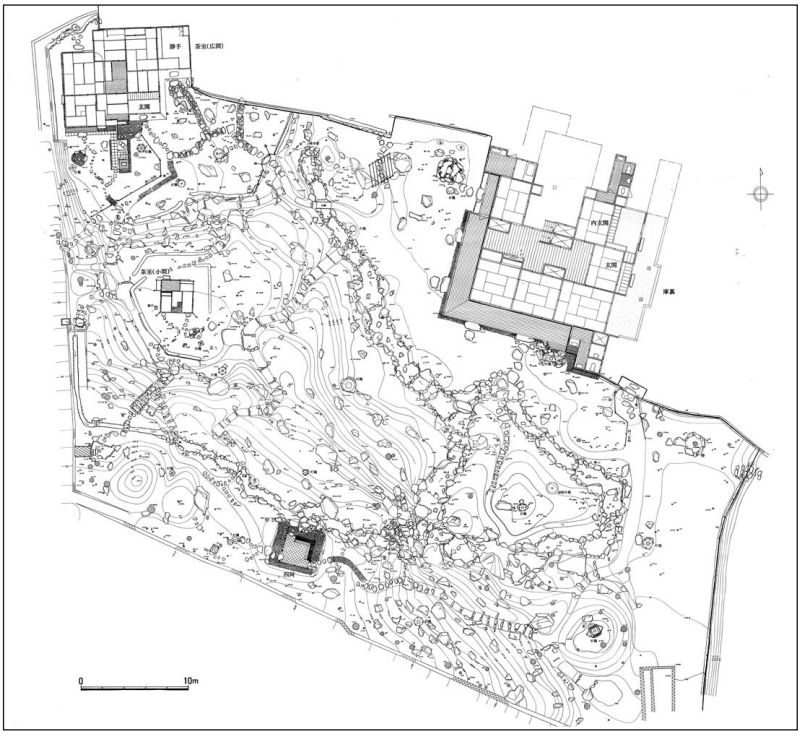




旧竹林院庭園

竹林院は東塔北谷に属する里坊で、少なくとも江戸時代中期には、現在の旧竹林院跡の場所にあったことがわかっています。明治時代になって資産家が買い取り、別荘として整備された際に、庭園の原型ができたものと思われます。

敷地は、西南の隅から東北部に向かって緩やかに下り、庭園はその傾斜を利用しています。主屋の他に3棟の庭園建築があり、これらの建物へ続く道は、飛び石や石段、流れや滝、燈籠や石塔など次々と庭園景観が変化する構成となっています。地形を生かし、建築、庭園景物の配置も考え抜かれた回遊式の庭園で、全体的に明治時代特有の作風がみられます。



旧竹林院庭園実測図



雪景色



旧竹林院庭園

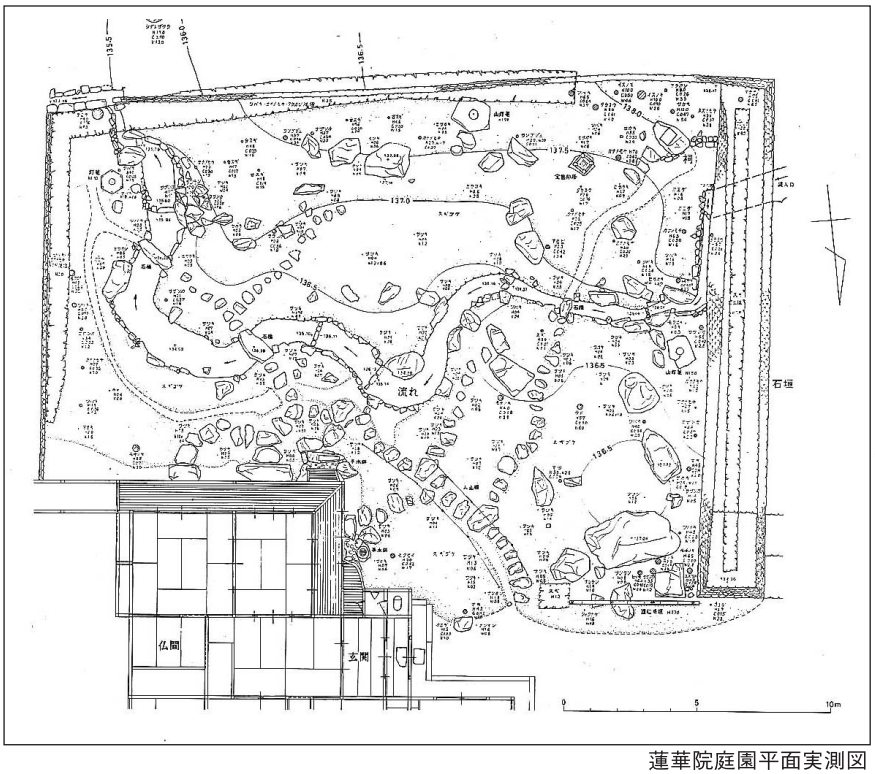


蓮華院庭園

蓮華院庭園［通常は非公開］

東塔北谷に属し、天正年間（1573～92）仁秀和尚が造立した頃に、この庭園も造られました。坂本里坊庭園の中では、1番古い庭だとされています。

書院の南庭で、南部に築かれた山にある大きな三尊石や、庭の北西隅に配された3個の巨石など、桃山的な豪華さを見ることができます。西部から取り入れた水を築山の裾部にＳ字状に流す遣水の庭ですが、これは、かなり後に改造を受けているようです。流れの中央部と下流の石橋手前に、景石を集中して配しています。また、庭内の鎌倉末期の宝筐印塔（ほうきょういんとう）や、庭の外になりますが、シダレザクラの見事な大木もみどころとなっています。



蓮華院庭園平面実測図



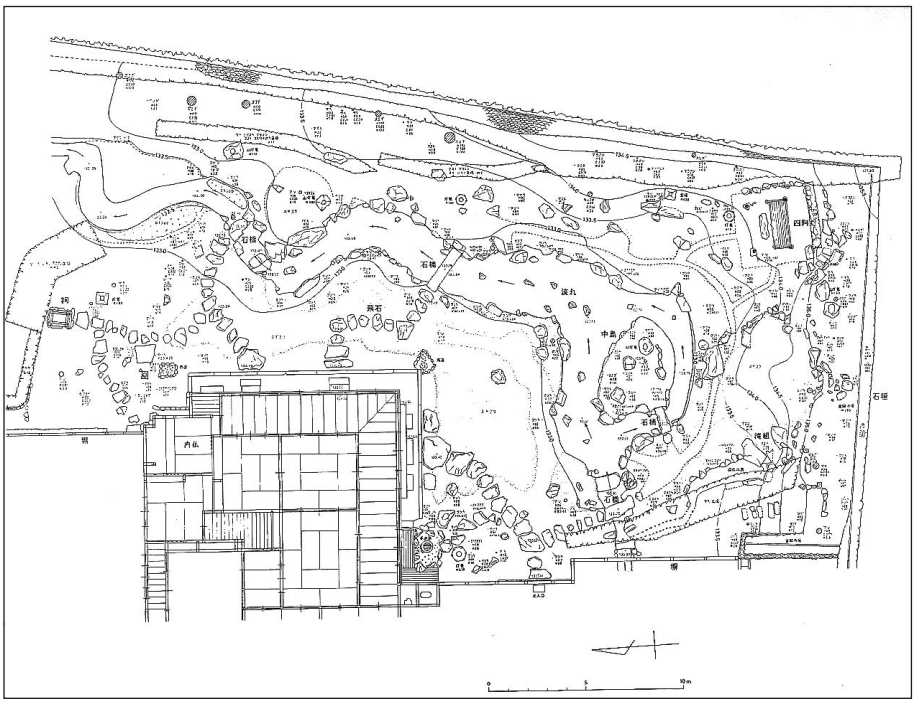


律院庭園［通常は非公開］

現在は東塔に属する里坊ですが、元々は松禅院という横川飯室谷の総里坊格の寺でした。正保年間（1644〜48）に再興された頃に築庭されたと考えられます。保科寺宗秀という作者が伝えられていますが、史料からは確認できていません。

表門と穴太衆積み石垣の外観は坂本里坊の中でも特に見事で、内部の築山に植栽されたマツやカエデがのぞき、一層の風情を醸し出しています。

庭園は、この築山を背景として書院の南側から東側へめぐる遣水の庭で、流水が幅広く、のびやかなせせらぎとなっています。また、築山東部に建つ茅葺の四阿（あずまや）からの眺めもみどころの一つです。



律院庭園平面実測図





律院庭園

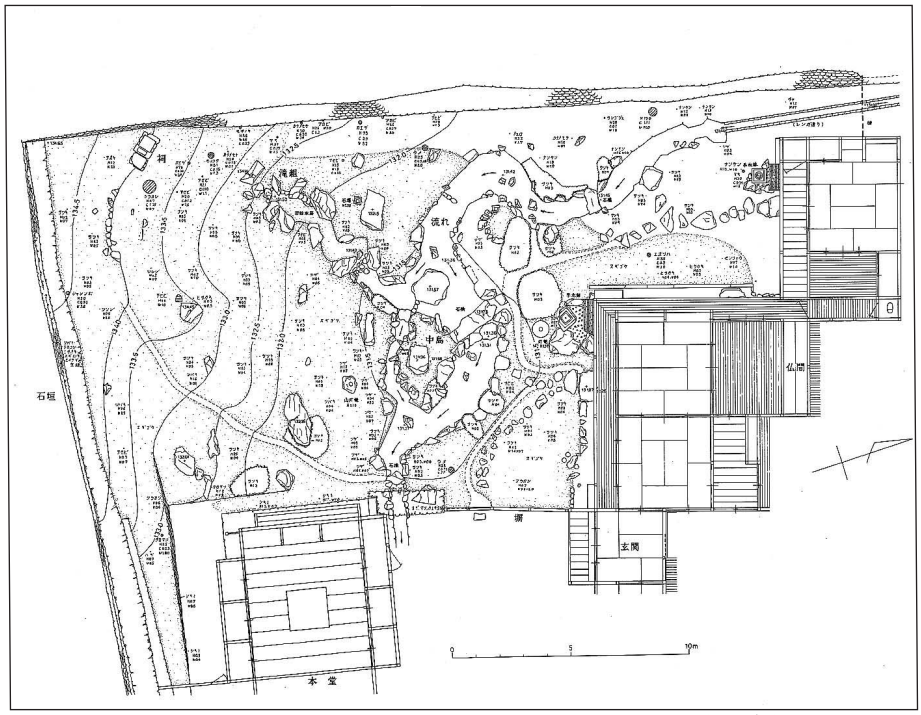


実蔵坊庭園

実蔵坊庭園［通常は非公開］

東塔南谷に属し、第1世実善が元和6年（1620）に浅野但馬守長晟（ながあきら）の援助を受けて中興したといわれています。里坊は、第2世実俊大僧正が天和2年（1682）に坂本に隠退した後成立し、庭園もこの時期に造られたと考えられます。

書院の南庭で、表の道路に面した石垣の上端まで、ゆるやかに起伏する築山となっています。築山を背に、西に隣接する律院から流れを引き、書院前面で流れの幅を広げ、中島を設けています。築山西部の滝石組は、水落石の背後に、先の尖った巨石を力強く配したもので、この庭のみどころの一つです。離れ座敷の縁先には、鎌倉時代の宝篋印塔の笠を利用した、見事な手水鉢（ちょうずばち）が配されています。



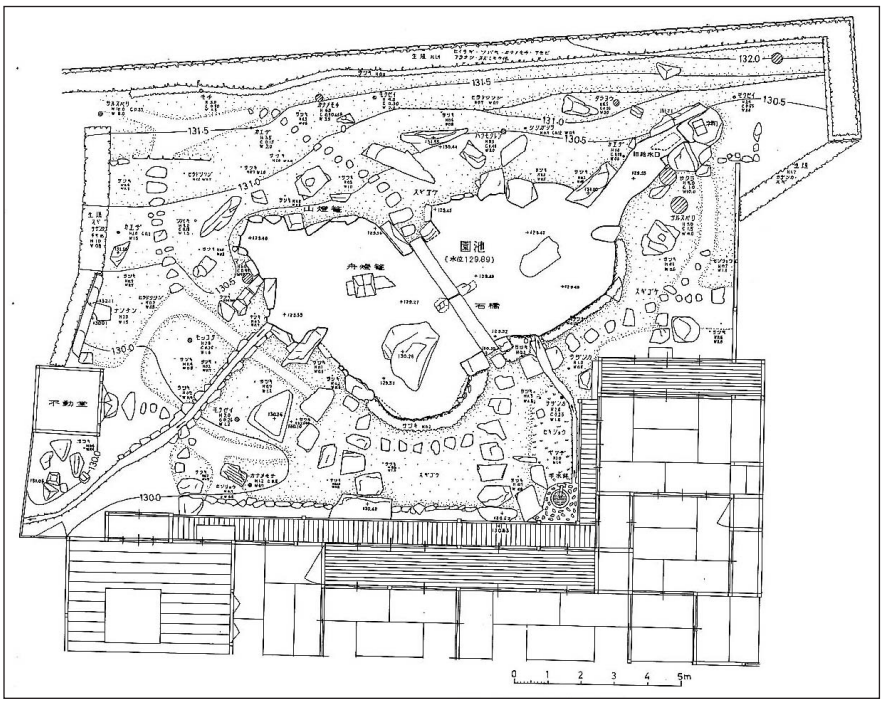
実蔵坊庭園平面実測図



寿量院庭園（じゅりょういんていえん）［通常は非公開］

東塔東谷に属し、第1世純海大僧都の創設で、里坊の成立は判明していませんが、幕末になって、第13世覚宝大僧正の手により再興されました。庭はこの時に整備されたもので、唯一、築庭の記録の残る里坊庭園として特筆されます。

敷地は表門より低く石段が3段設けられ、外構えの穴太衆積み石垣の上端まで築山として生垣で区切り、その裾部に池を配して、対岸の築山や南西隅の滝口にも、堂々とした石が組んであります。池に架けた石橋の横に平天の巨石を配するなど、狭い敷地内で大胆な趣向や石組を見ることができ、江戸末期の作庭としては、個性的で優れたものの一つといえます。



寿量院庭園平面実測図



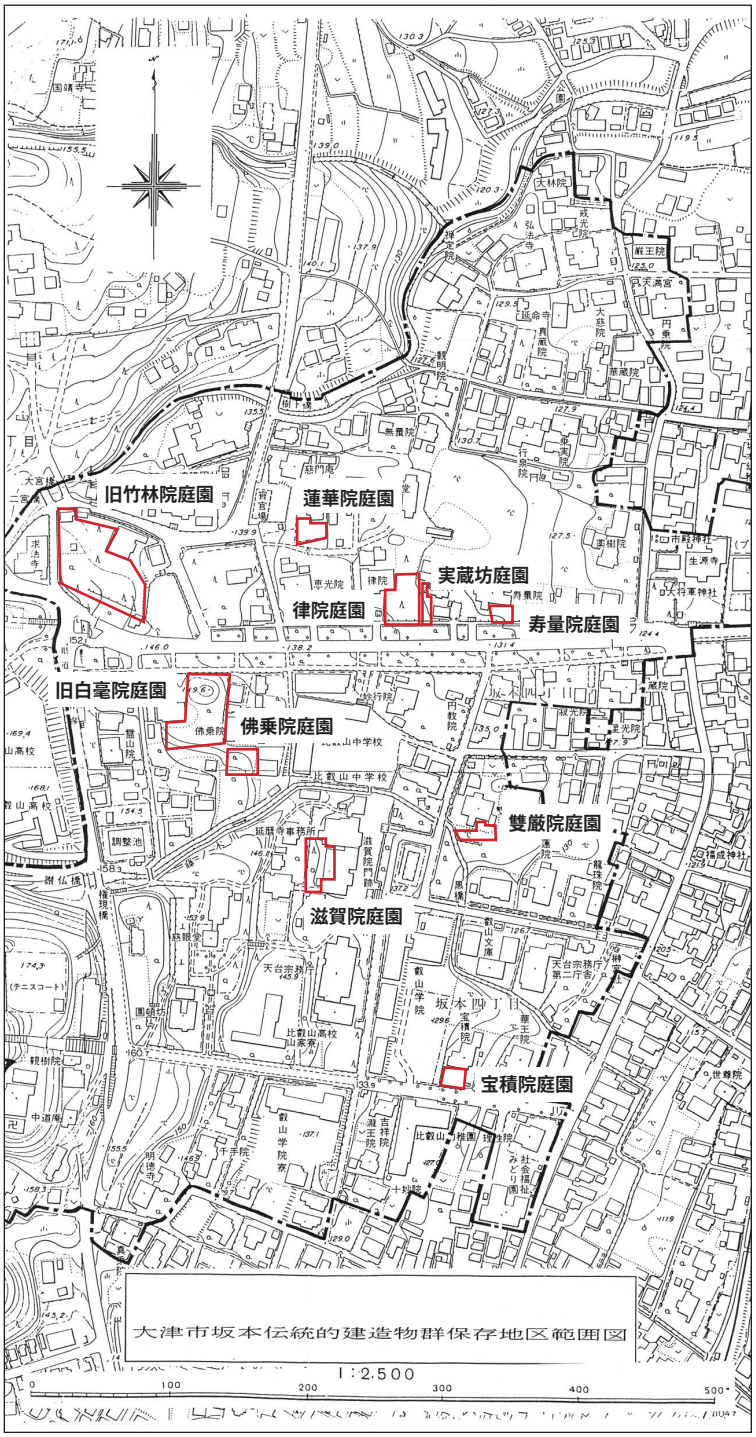


寿量院庭園

「伝統的建造物群保存地区」について

昭和50年の文化財保護法の改正により、伝統的な建造物群の保存制度が始まりました。まず、市町村が伝統的建造物群保存地区を指定し、その中から特に貴重なものを国が重要伝統的建造物群保存地区に選定します。具体的には、城下町・宿場町・門前町などです。歴史的な町並みを現在に伝える建造物を持つ地域を保護・保存するために、国は市町村に管理・修理・景観復原のための財政面の支援や指導などをしています。

県内では重要伝統的建造物群として、坂本の他、近江八幡市八幡、五箇荘町金堂が選定されています。



里坊群・門前町

重要伝統的建造物群保存地区の選定基準は、①伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの、②伝統的建造物群及び地割りがよく旧態を保持しているもの、③伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの、の三つがあり、坂本は、「里坊群・門前町」として①の理由で、平成9年10月31日に選ばれています。選定範囲は約28.7haです。

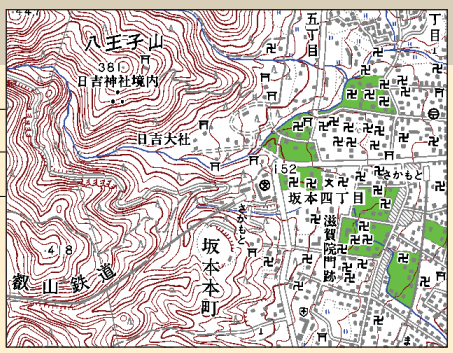
関連する文化財

坂本伝統的建造物群（大津市）	延暦寺や日吉神社の門前町として栄えた坂本の町並み。里坊と石垣が特徴
史跡日吉神社境内（大津市）	学習シートNo.009
史跡延暦寺境内（大津市）	学習シートNo.004
盛安寺庭園（大津市）	学習シートNo.092
聖衆来迎寺庭園（大津市）	学習シートNo.093

もっと深く知りたい

比叡山国宝殿	☎077-578-0001	大津市坂本本町4220
大津市歴史博物館	☎077-521-2100	大津市御陵町2-2
大津市教育委員会	☎077-582-2638	大津市御陵町3-1

延暦寺里坊庭園へのアクセス　JR湖西線　比叡山坂本駅下車
京阪電鉄石坂線　坂本駅・松ノ馬場駅下車



【参考文献】〔坂本里坊庭園調査報告書〕大津市教育委員会　〔大津の文化財〕大津市教育委員会　〔日本庭園史体系〕社会思想社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月